

1. ネオヒッピー×SDGs（北海道下川町）

1960年代にアメリカで興ったヒッピーカルチャー（隔絶された地域で、サステナビリティな暮らしやパーマカルチャーを選択・実践する人々で集う、生活文化のこと）。下川町には、メインストリームに中指を立てるカウンターカルチャーとしてのヒッピーではなく、自立心の強い、自分なりに意思とこだわりを持って地に足をつけて暮らす“ネオヒッピー”な人々が住んでいる。町と一緒にネオヒッピーな暮らしを自分の手でつくっていききたい人、ネオヒッピー的カルチャーを使いたい人へ、活用を求める。

2. 下川ふるさと納税 10 倍計画（北海道下川町）

今や全国各地の自治体が力を入れているふるさと納税。下川町の現在のふるさと納税額は年間で約 2000 万円。ふるさと納税を通じて、下川町と強い縁で結ばれる下川応援団を増やしたり、まちづくりのために使える資金を増やしていくためにも、これまでには無い面白い、ふるさと納税を増やしていくためのアイデアが求められている。

3. 眠れる森の広葉樹（北海道下川町）

下川町の広大な天然林の中で育つ広葉樹。自然の力で育つ貴重な森林資源ですが、人がコントロールするのはとても難しく、せっかく何十年もかけて育った立派な木でも、今まではほとんどが紙の原料になるパルプ材として使われてきた。最近になり、広葉樹を活用したものづくりなどが始まっているものの、まだまだ広葉樹を更に有効活用するためのアイデアが求められている。

4. 震災で倒壊した古民家から取り出した材木（北海道厚真町）

実は厚真町、築 100 年以上の古民家が 16 棟も残る、道内では珍しい“古民家の町”。しかし、いくつかの古民家が 9 月の震災で倒壊してしまった。そのまま放っておけば片づけられてしまうけど、それはもったいない。今はもうこれほど立派な木材は手に入らない。古民家が倒れたのは悲しいけど、その歴史は引き継ぎたい。厚真町の古民家材の利活用を募集しています。

※利活用にあたっては「厚真町内で利用」もしくは「厚真町の商品として利用」になります。

5. 北海道サーフィンの原点「浜厚真」（北海道厚真町）

実は厚真町、北海道なのに「サーフィン」ができる。しかも浜厚真は、年間約 6 万人のサーファーが集まる人気スポットだ。北海道で暮らしたい、けどサーフィンもしたい。だから「北海道に移住するなら厚真町しかなかった」そうやってやってくる人たちもいるほどだ。これをビジネスチャンスとしてみっと活かせないか？よりサーファーが集まるような仕掛け、来てくれるサーファー達と厚真町がもっとながりを持てるような企画はあるか。



6. 木炭づくりのときにできる「木酢液」(北海道厚真町)

厚真町で木炭を生産する「鎌田木炭」。去年9月の震災で4つあった炭窯すべてに被害があった。ボランティアの協力もあり、なんとか2つを再築するものの、また天井が崩れてしまった。要因としては、炭窯を作るのに必要な「釜を乾かす」の段階で、しっかり乾く前に冬になり、雪が窯を湿らせてしまったこと。冬場の生産再開は厳しいと感じていたものの、なんとか冬までに炭づくりを再開したかった社長。現状を受けて、社長の鎌田さんは「じゃあ、時間ができたと考えて、今まで手を付けられなかった木酢液を商品化したい。力を貸してほしい」と呼びかけている。木酢液とは、木炭を作るときに副産物としてできる液体。防虫や消臭、入浴剤にもなる万能モノだ。「どんな名前にすればいいか」「どんな見せ方にすればいいか」「どこで売ればいいか」アイデアの掛け合わせを求めている。

7. 年間4万人訪れる観光客がスルーするシャッター商店街(岩手県釜石市)

釜石の観光名所で、年間約4万人もの観光客が訪れる釜石大観音の前にシャッター街になった商店街がある。釜石大観音は近年”恋人の聖地”に認定され、縁結びの場としても注目されている。商店街には活用できる空き店舗も数軒あり、観光客を呼び込めるチャンスが大いにある。商店街に賑わいを取り戻すアイデアを求めている。

8. 甲子柿(岩手県釜石市)

釜石市甲子町(かっしちょう)で生産される柿は、1週間煙で燻すことで渋みを抜く独特の製法で作られ、栄養価の高い甘みのある味など、全国的にとっても珍しい柿。しかし、生産農家の高齢化など、取り巻く課題が沢山ある現実。甲子町柿の都市部への流通や、面白いブランディングアイデアが求められている。

9. 旧市街の銭湯を起点としたエリアリノベーション(宮城県気仙沼市)

気仙沼の陸の玄関口、気仙沼駅。ここから観光のメインスポットであり海の玄関口でもある内湾地区を結ぶ道路沿いに、古町(ふるまち)・新町(あらまち)地区がある。かつては商店と住宅が集まり、メインストリートの一つだったが、現在はほぼシャッター街に。古い街並みの中には、気仙沼に唯一の銭湯や歴史ある旅館、飲食店等が細々と残る。地元の若者が、震災後生まれた地元住民と移住者が協働する文化を残すため、古くから地域のコミュニティ拠点になってきた銭湯を軸としたエリアリノベーションを進めている。銭湯やこの町に関わる人を増やすアイデア・支援者を求めている。



10. 旧中心市街地の空き時間・空きスペース（宮城県気仙沼市）

気仙沼市役所のおひざ元であり、かつて中心市街地だった気仙沼市八日町。人口減少や郊外への大型店の出店などに伴い、年々事業規模が縮小し、人通りもさみしくなってきた。一方で、地元出身の若者が立ち上げたコミュニティデザイン会社が地域内外の人をつなぐハブになりながら、日常のなかに多様なイベントを組み込み、多様な人々が商店街に足を運ぶ仕組みづくりを実験的に行なっている。昔からあるお店の空きスペースを使って若手の起業家がショップを始めたり、他地域と連携した商品開発のマッチングが起きるなど、新しい動きも生まれている。八日町商店街を使ったアイデアを求めている。

11. 廃校になった旧小学校（宮城県気仙沼市）

閉校となった3つの旧小学校の敷地・建物を有効活用した地域活性化事業の提案を求めている。

- ・旧浦島小学校（趣のある木造校舎。今春完成予定の「気仙沼大島大橋」を渡れば“緑の真珠”と呼ばれる気仙沼大島もすぐのアクセス）
- ・旧白山小学校（田んぼに囲まれた静かな環境。旧跡「鹿折金山跡」や資料館も近い）
- ・旧馬籠小学校（森に囲まれた静かな環境！家族で楽しめる牧場「モ〜ランド・本吉」も近い）

12. 幻の米で新たなビジネスチャンス（宮城県石巻市）

沖積平野を一級河川の新・旧北上川と鳴瀬川が流れる県内有数の穀倉地帯・石巻市。良質な米の産地として知られ、特にササニシキは日本一の生産量を誇る。かつては「西の横綱」コシヒカリと並んで「東の横綱」と呼ばれたササニシキだが、育成方法が難しく、冷害が続いた昭和50年代後半以降、さらに平成に入って冷害や台風の被害により生産者が激減した。そんなササニシキ、実は、寿司米に非常に適している。世界三大漁場と言われる三陸沖に接する石巻は日本有数の寿司どころ！また、石巻が誇る酒蔵「平孝酒造」の平井社長は、寿司に合う日本酒を開発し、「寿司王子」として業界で名を挙げている。そんな石巻で、ササニシキをキーワードに「寿司」や「日本酒」にとらわれない、新たなビジネスの提案を求める。

13. 海のオレンジ宝石、ムール貝を救え（石川県七尾市）

七尾市は、能登牡蠣の産地。その能登牡蠣を養殖すると大量に引っ付いてくるのが、ヨーロッパでよく食されるムール貝。現状は、市場がなく、そのまま海に捨てています。この海のオレンジ宝石であるムール貝を七尾の新たな名産にするアイデアを求めています！



14. 出雲神話をキーワードにしたツーリズム開発（島根県雲南市）

年間 600 万人が参拝する出雲大社のある出雲市や国宝松江城のある松江市、両市の年間入込観光客数は約 2100 万人だが、隣接する雲南市の年間入込観光客数は約 140 万人にとどまっている。雲南市周辺には、古事記にある出雲神話（とくにヤマタノオロチ伝説）にまつわる神社・旧跡が集積している。例えば、ヤマタノオロチを成敗したスサノオノミコトが日本初の「宮」を建てた須我神社（スサノオノミコトが同所で日本初の和歌を詠んだ）やオロチの棲家といわれる天が淵などマニアックなスポットが満載！これらのスポットを活かして誘客につなげたい。

15. 廃線危機のトロッコ列車と旧商店街（島根県雲南市）

市の玄関口となる JR 木次線の木次駅前から約 1Km に及び商店街の名残がある。全盛期には 300 店舗を誇った商店街も今は殆どが空き店舗だ。JR 木次線は、山陰本線の宍道駅（島根県松江市）から中国山地の備後落合駅（広島県庄原市）を結んでおり、鉄道ファンには出雲坂根駅の三段式スイッチバックで知られている。春から秋まではトロッコ列車の「出雲おろち号」が走り、観光利用もされている。木次線の利活用を軸に、商店街に新たな人の流れをつくりたい。

16. 農地を持つ家が作りすぎてしまう野菜を、必要な人に！（島根県雲南市）

主に中山間地域の各家庭で、土地を荒らさないために耕作が行われた結果、家庭で消費できる量を超えた野菜が生産されていることが判明した。余剰となった野菜は、知人に分けるか（近隣でも皆同じような品目を生産している）、廃棄している。家庭菜園のため、廃棄の正確な量を計測するのは難しいが、ある住民自治組織のヒアリングによると、70 歳以上の回答者 64 名のうち、畑をやっている人が 36 名、そのうち 75%は余剰野菜があるとのことだった。この余剰野菜の使い道を探している。

17. 年間 5,000 人が訪れる無人島（日南市）

日南市南郷の沖合い約 3km に位置している海岸総延長 9.37km の大島。最盛期の 1950 年代には 300 人から 400 人あった人口も過疎化が進み、現在は無人島に。1980 年に閉校した大島小学校の校舎を改装し、市営アドベンチャーキャビン及びコテージを創設。年間 50 組前後が利用している。また、日本初の無筋コンクリート造の鞍崎灯台は約 120 年以上、太平洋を見守っている。目井津港からは市営の旅客船（所要時間約 15 分・1 日 4 往復）が運航され、年間約 5,000 人が利用しているが、その過半数は釣り客で、大島そのものの利活用が求められている。



18. 全国約 25,000 台のトラック・タクシー・バスなどの輸送用車両

(セイノーホールディングス株式会社)

セイノーホールディングスは、物流以外にも IT・商事・ディーラーなど様々な事業を展開しています。アイデア一つで可能性無限大！最高の Passion と革新性を持ったスタートアップとの出会いに期待しています。共に、未知なる新規事業を創り上げましょう！

<その他提供アセット一覧>

- ドライバー用アプリ「いち知る」(GPS データ 約 18,000 コース分を含む)
- 営業車両ほか(乗用車やフォークリフト、レッカー車等)
- ブランド力、PR 力
- グループ組織 88 社
- 鉄道コンテナ
- 営業所(全国約 700 か所)、物流センター、ビジネスセンター
- 社宅(全国約 4,000 部屋)
- 屋上(全国約 140 か所)

19. 当日のお楽しみ(ロート製薬株式会社)

創業 120 周年を迎えるロート製薬。

OTC 医薬品・化粧品だけでなく、食・農業、再生医療、海外事業など、日常のライフスタイルから先端のライフサイエンスまで事業領域拡大中。

あなたのアイデアを実現できるフィールドをマッチさせ、地域課題解決へ向けて走りだそう！

※アセットは一例です。実現に向けては関係者との調整が必要となります。予めご留意ください。

